

年度 2008 後期	曜日・校時 金曜日 2 校時	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	経済と経営(国際金融入門) Economics and Business (Introduction to International Finance)		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等)	全学部	科目分類 人文・社会科学科目	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 須齋正幸 / Eメールアドレス: msusai@nagasaki-u.ac.jp / 研究室: 経済学部 東南アジア研究所 309 / TEL: 095-820-6356 / オフィスアワー: 金曜日 16時から18時			
担当教員(オムニバス科目等)			
<p>授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 (500文字)</p> <p>授業のねらい: 国際金融論の基礎的な事項を、自分の身の回りの生活とのかかわりの中で理解する。為替レートの変動は、通常の生活と直接関係していないように思われるが、実はさまざまな局面でその影響を受けている。それを理解することで、国際的な経済の動きに主体的な興味を持つことができる。</p> <p>授業方法: 講義による。必要に応じて資料を配布する。テキストは用いないが適宜参考書等を推薦する。</p> <p>授業到達目標: サミットなどの国際会議、あるいはサブプライムの影響が我々の生活にどのように影響を与えるかに興味を持つとともに、単に新聞やテレビの報道による理解ではなく、学問的基礎を基にして自らその意味を理解できるような基礎的素養を身につける。</p>			
<p>授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) (1300文字)</p> <p>授業内容(概要)</p> <p>マクロ経済学の基礎的素養が国際金融論を理解するためには必要となる。講義の前半ではマクロ経済学の基礎事項を教授する。それらの知識を用いて為替レートの意味、その変動が日本経済に与える影響、さらには為替レートの変動要因について体系的に教授する。</p> <p>第1回 本講義の概要および国際金融論の経済学における位置づけ 第2回 マクロ経済学の基礎: 国民所得の定義 第3回 マクロ経済学の基礎: 民間消費と国民所得 第4回 マクロ経済学の基礎: 財市場の均衡と均衡国民所得 第5回 マクロ経済学の基礎: 金融市場の均衡 第6回 マクロ経済学の基礎: 金融および財政政策 第7回 為替レートとは: スポットレート、フォワードレート 第8回 さまざまな為替レート精度: 固定相場制と変動相場制 第9回 金本位制度と為替レート制度 第10回 経常収支と為替レート: 日本経済と為替レート 第11回 経常収支と為替レート: 物価水準と為替レート 第12回 円高と日本に輸出産業: プラザ合意の影響 第13回 資本移動と為替レート: フォワードレートと利子率 第14回 資本移動と為替レート: 期待為替レートの役割 第15回 為替レートと我々の生活(全体のまとめ)</p>			
キーワード	為替レート 購買力平価 金利平価		
教科書・教材・参考書	教科書は特に指定しない 参考書: 国際金融論入門 小川英治著 日本経済新聞社 為替レートの経済学 須齋正幸他訳 東洋経済新報社		
成績評価の方法・基準等	期末試験の成績		
受講要件(履修条件)	なし		
本科目の位置づけ/学習・教育目標	社会科学の国際分野では国際金融論はマクロ系に属する/為替レートなど国際経済における変動がどのように我々の生活影響を与えるかを自ら考えることのできる素養を身につける		
備考(準備学習等)	なし		